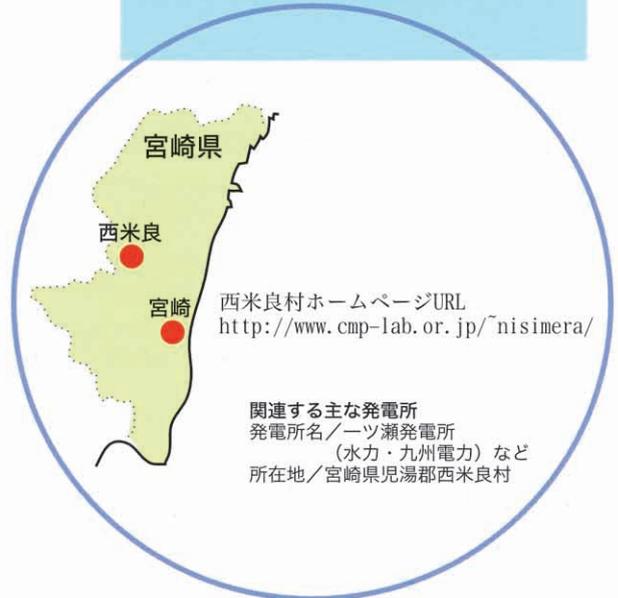
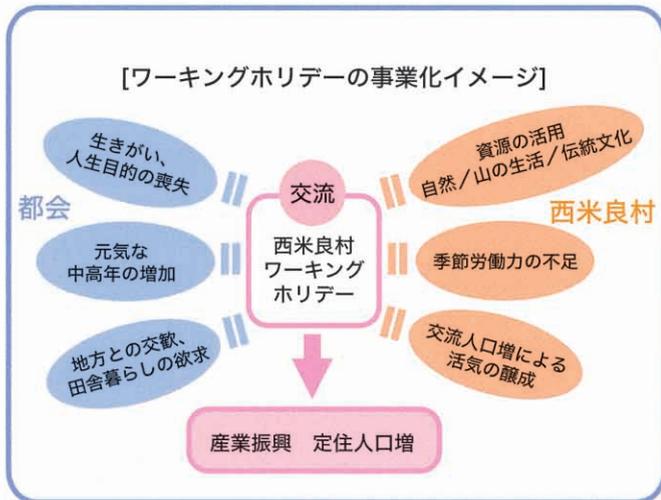


宮崎県・西米良村にしあいらそん「ワーキングホリデー」

# 休暇と仕事をセットにした 自己実現型の交流システム

## 仕事を通じ、心の交流

西米良村は若者に人気のワーキングホリデー制度を村おこしのアイデアにして成功しました。ワーキングホリデーとは本来、海外旅行中に旅行費用を補うため就労することが認められる若者向けの特別な制度で、異なる文化、生活習慣などを労働を通じて体験するというもの。西米良型ワーキングホリデーは、「若者↓海外」という構図を「都会人↓過疎の村」に置き換え、仕事と休暇をセットにした交流システムです。



西米良型ワーキングホリデーは、参加者は休暇の間の何日かをユズの加工や花の栽培などの労働に従事します。参加者の一人は「農業生活を体験することで、村の人と心の交流が生まれ、生きる力がわいてきた」と感想を述べています。

## 林業から 高冷地作物への転換

西米良村は九州中央山地、熊本県に境を接する人口一五〇〇人の過疎の村です。村の面積の九六％が林野で、かつては林業で栄えました。昭和十五年には

木炭の生産日本一になったことでもあります。林業の衰退とともに人口は減り続け、現在、高齢化率は三五％に達しています。産業構造の転換を促すため、さまざまな試みをしました。昭和四十八年から取り組んだユズの栽培は、高冷地で昼夜の温度

### 【主な募集条件】

仕事 (労災適用)	花の鉢上げ・手入れ 出荷ユズの選別・ユズの加工 シイタケの栽培・収穫
勤務時間	8時～16時半 (実働7時間)
報酬	4200円 (時給600円)
宿泊施設 (コテージ 自炊)	双子キャンプ村、小川城址公園「民話の宿」(民宿もあり)
宿泊料金 (1日1棟)	双子キャンプ村3000円 (一般5000～11000円) 「民話の宿」3000円 (一般5000～7000円)



**[米良の庄づくりの経緯]**

- 昭和62年 泊まりの庄「双子キャンプ村」完成
- 平成2年 語り部の庄「小川城址公園」完成
- 7年 (株)米良の庄設立 温泉掘削成功
- 花づくりの庄「硬質ビニールハウス」完成
- 9年 語り部の庄「民話の宿」オープン
- 湖遊びの庄「湖の駅」オープン
- ワーキングホリデー受入開始
- 10年 物づくりの庄「シイタケ菌床栽培」開始
- イベント「西米良村昔語り」
- 11年 健康づくりの庄「温泉 ゆた〜と」オープン
- 街づくりの庄「若者定住住宅(集合住宅)」完成
- 12年 イベント「山菜まつり」

差が大きいため、平成元年ころから増やしました。この気候特性を生かして、平成一〇年ころからはホオズキやシンビジウムなどの栽培に取り組み、東京市場などへの出荷を果たしました。現在では秋出しパンジー（夏にまいて秋に出荷）やスイートピーなど、栽培する花の種類も増えています。



カリコボーズ

**「休暇村・米良の庄」づくり**

西米良村は平成三年から始まった第三次総合計画で、「カリコボーズの休暇村・米良の庄」づくりを進めてきました。カリコボーズとは、古くから伝承されてきた河童に似た精霊のことです。「米良の庄」プロジェクトは、八つの「庄」ごとにさまざまな事業を進めています。

- 一、街づくりの庄 下水道や若者定住住宅などの整備
- 二、健康づくりの庄 西米良温泉の建設など
- 三、湖遊びの庄 ダム湖の有効利用と「湖の駅」整備
- 四、語り部の庄 小川城址公園と民話の里整備
- 五、花づくりの庄 山間地の特性を生かした花づくり
- 六、川遊びの庄 ヤマメの里づくり
- 七、物づくりの庄 菌床栽培、木工所の建設
- 八、泊まりの庄 双子キャンプ村などの整備

平成五年に宮崎県のモデル過疎地域に指定されたこともあり、総合計画の後期見直し時期に当たる平成七年、「付加価値を付けた総合産業（県では「第六次産業」と命名）」としてワーキングホリデー事業の検討を始めました。平成八年からは電源地域振興センターの専門家派遣事業を活用し、細部を詰めていきました。



ユズの加工作業

**3年間で99人を迎える**

ワーキングホリデー制度は平成九年九月に五戸の農家・加工所スタート、三カ月の試行期間を経て、平成十年から本格稼動しました。参加者の募集は昭和五十八年から続いている特産品直送システム「ふるさと村民制度」の会員約七百人をメインに行いましたが、宮崎日日新聞





湖の駅  
一つ瀬ダムの上流、国道219号沿いにある食事・休憩施設。シイタケや無農薬野菜、ユズ加工品などの特産品も販売

で大きく紹介されたのをきっかけに、マスコミ各方面で約五百件報道され、全国から約三百件の問い合わせがありました。十年度は受け入れ先を九戸に増やしたことから、三人のリピーターを含め全国から四十四人が訪れました。各地からの視察や取材も相次ぎ、村は活気づきました。黒木定藏村長への講演依頼もたくさん寄せられました。村長は「ワーキングホリデーで自

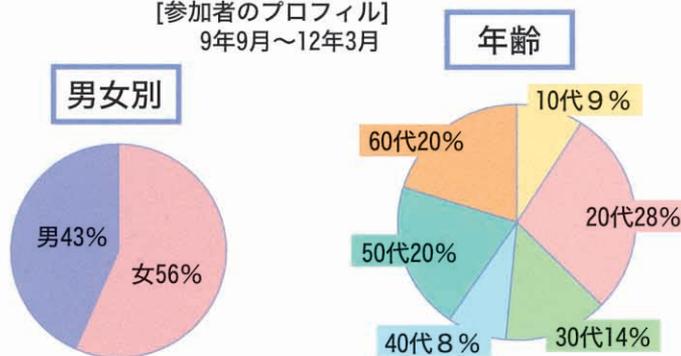
分の村に価値を見いだすことができた」と語っています。十一年度は長雨や台風などの影響から二十六人の参加にとどまりましたが、リピーターは五人に増えました。平成九年度からの三年間で九十九人がこの制度を利用、四分の三が九州からの参加者でしたが、東京や北海道など関東以北からの参加者もありました。若い女性の訪問が多いという、村おこしにはうれしい結果となりました。参加者からは「西米良での仕事を年中行事にしたい」など、ワーキングホリデーへの高い評価の声が聞かれ、受け入れ側の農家も「目的意識を持った、いい人たちが来てくれた」と、この制度への手ごたえを感じています。

今年度は旅行や田舎暮らし関係の雑誌を中心にパブリシティを打っています。西米良の魅力に触れ、今年で四回目の訪問になる人や、定住目的で村内に就職した女性も現れました。

## 受け入れ態勢の拡充を

この制度は受け入れ側の「季節的な労働需要」が前提になりますが、冬場は就労場所が少ないのが実情です。また現状の九戸態勢では年間五十人を受け入

[参加者のプロフィール]  
9年9月～12年3月



れるのが限度です。一方で「米良の庄」のハード整備は順調に進み、「湖の駅」「西米良温泉」の開業で、入れ込み人口は平成九年以降、飛躍的に増加しています。ワーキングホリデーの今後の方策としては、①通年の受け入れ態勢を整える②協力事業所を増やす③ユズや木工の加工所を増やす④近隣町村に広域連携を働き掛ける――などが検討されています。

[米良の庄の利用者数(人)]

	H. 6	H. 7	H. 8	H. 9	H. 10	H. 11
小川城址公園	2,523	2,279	2,585	4,411	5,322	7,331
双子キャンプ場	4,076	4,032	3,641	3,610	2,911	5,248
湖の駅	—	—	—	13,186	23,480	26,809
西米良温泉	—	—	—	—	—	106,242
合計	6,599	6,311	6,226	21,207	31,713	145,630





愛知県半田市「アダプト・プログラム」

# ボランティアの手で 道路や公園を美しく



守る会」などの活動です。そこで多額の費用が必要となる公園や道路の清掃・管理など、市内全域の環境美化のため、行政と市民ボランティアが共同で活動していくことの可能性が検討されました。

## 市長の指示で 導入検討委員会発足

アダプト・プログラム導入のきっかけとなったのは、「市長への手紙」「市民のつどい」などに寄せられた、市内美化の要望でした。「市長への手紙」は平成十一年、酒井義弘市長が就任と同時に打ち出した広聴事業の核となる制度で、市が用意した着払い封筒に意見・苦情・提案などを記入して投書するというものです。主要施設には投書のための「平成目安箱」も設置されています。市長との市民懇談会「市民のつどい」でも、環境美化問題は主要なテーマの一つでした。こうした動きの中から、市長によりアダプト・プログラムの検討が指示されたのです。

環境保全意識の醸成や、環境美化コストの削減といった観点から、「アダプト・プログラム」と呼ばれる制度が、全国的に静かな広がりを見せています。この制度は、ボランティアとなる市民や地元企業が「里親」となり、一定の区域・区間に分けられた道路や河川、公園などを「養子」（アダプト）として受け持ち、そこでの美化活動を定期的にを行うというものです。

## アダプト導入の背景

半田市は名古屋市の東南約三十キロメートル。古くから海運業、醸造業で栄え、現在は臨海部に航空機産業、自動車関連企業などが進出しています。平成八年、半田市は「空き缶等ごみ散乱防止条例」を制定し、公園、道路などの美化事業に乗り出しました。従来、公園の管理は地元の自治組織に委託していましたが、新興住宅街や新規住民の増加から組織がうまく機能しないという状況が生まれていました。こうして公園の管理を市に戻すことになったものの、公園の数が多すぎるなど、多くの困難に直面することになりました。

一方、市民の間では、河川や海浜緑地などで美化ボランティアの活動が活発化していました。市出身の童話作家・新美南吉の代表作『ごんぎつね』の舞台となった、矢勝（やかち）川の堤防に植えられた彼岸花百万本を守るろうという「矢勝川の環境を

プ・プログラム導入検討委員会」とその実働部隊である「同作業部会」が設置され、月から活動を開始しました。アダプト先進地である香川県善通寺市を訪れた際は、「たばこの吸い殻一つない美しさにびっくりしました。それ以上に、弘法大師誕生の地にふさわしく、人々がお遍路さんや観光客を「お迎えする心」を強く持っていることに感心しました」（秘書広報課・新保幸雄さん）。

検討作業の中では、管理経費の削減効果について「大幅な改善は期待できないが、長期的・総合的に見れば、市民の環境美化意識や地域社会づくりに大きな力になる」と結論。プログラムの導入を積極的に進めました。



半田市ホームページURL  
<http://www.city.handa.aichi.jp/>

関連する発電所  
発電所名/武豊火力発電所（火力・中部電力）  
所在地/愛知県知多郡武豊町隣接市町村/半田市など  
発電所名/碧南火力発電所（火力・中部電力）  
所在地/愛知県碧南市隣接市町村/半田市など





里親活動



サインボード



### 関係部課の調整もスムーズ 三カ月でアダプトを事業化

検討委員会ではアダプト・プログラム導入のためのポイントを次のように考えました。  
一、小規模な「モデル導入」は考えず、全市的導入を行う。  
二、検討委員会を中心に各部門との率直な意見交換・調整を行う。  
三、市道（市土木課）、国・県道（県土木事務所）の道路担当部局との調整を密に行い、早急に県（道路維持課）と覚書を締結する。  
検討段階では準備までに一年と考えていましたが、市長の

「強い要請」で、平成十二年四月からの全市的導入を決定。募集要項やマニュアルの作成、予算割付、ロゴやサインボードのデザインなどが、秘書広報課を中心に都市計画課、土木課のサポートで「超特急」で行われました。

### 公募で愛称を決定 はんだクリーンボランティア

平成十二年四月、第一段階として四十七カ所の公園などを対象に指定し、県との覚

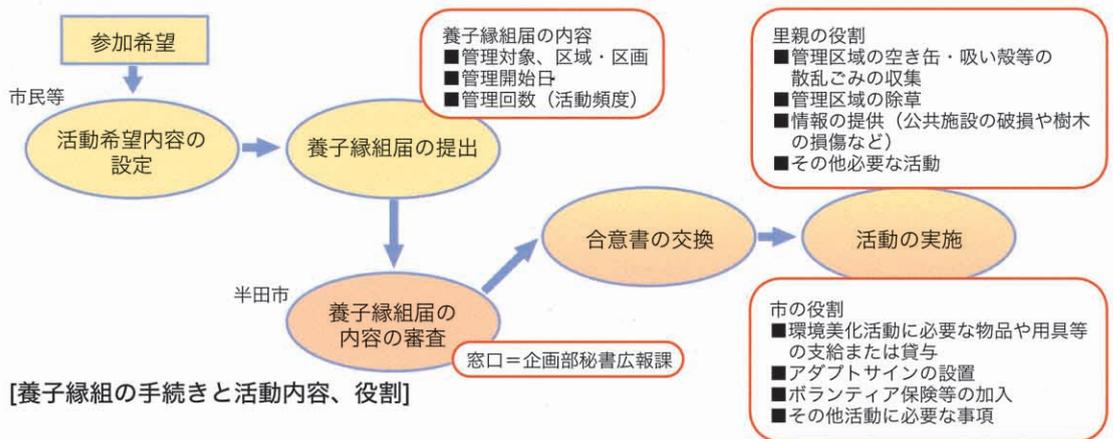
【はんだクリーンボランティア導入状況】（12年9月現在）

	対象場所	参加者（里親）
公園・広場・児童遊園	52カ所	20団体（524人）、21個人
道路	国道1路線、 県道6路線（9地区）、 市道14地区	19団体（441人）、6個人
繁華街	駅前（道路を含む）	
港湾施設		4団体（432人）
河川	矢勝川	1団体（10人）、2個人
市役所・公共施設周辺		市職員約1500人

書調印も行いました。また、いろいろな団体の集まりや広報ツールを利用してシステムの説明を行い、里親の募集と愛称の募集を開始し、愛称を「はんだクリーンボランティア」に決定しました。六月には第二段階として道路の里親を募集。一次・二次合わせ、延べ約二五〇〇人の応募がありました。平成十二年九月時点での導入状況は表のとおりです。

### ボランティアの活動と行政の役割

はんだクリーンボランティアでは、市民（団体）は公園、道路などの里親になり、自分で管理区域を決めます。その上で市長に「養子縁組届」を提出（辞退時は「里親辞退届」）。市長との間に「合意書」を取り交わします。里親は自分の生活時間に合わせ、無理のない活動頻度を定めることができ、好きな花を持ってきて植えることもできます。市は清掃などに必要な用具を提供し、里親の要望があればサインボードを設置します。また傷害・賠償保険の費用を負担します。





## [アダプト・プログラム導入概況] (平成12年10月現在)

導入主体	名称	対象
宮城県仙台市	仙台まち美化サポート・プログラム	道路
茨城県つくば市	アダプト・ア・パーク	公園
埼玉県川口市	川口市まち美化促進プログラム	道路、公園など
埼玉県本庄市	元小山川の里親制度	河川
東京都清瀬市	KIYOSE ADOPT	道路、公園など
神奈川県鎌倉市	若宮大路さわやかロード	道路
福井県鯖江市	公共施設の里親制度	道路、公園
山梨県・白根町	アダプト・プログラム白根	道路
愛知県半田市	はんだクリーンボランティア	道路、公園、河川、海浜
三重県	ふれあいの道里親事業	道路
滋賀県	淡海エコフオスター制度	道路、湖岸、河川
大阪府大阪市	まち美化パートナー制度	道路ほか
大阪府・岬町	公共エリアの里親制度	道路、海浜
和歌山県和歌山市	アダプシヨン・プログラム	公園
岡山県	おかやまアダプト	道路
広島県	広島県道路里親制度 (マイロードシステム)	道路
山口県萩市	きれいな萩 おまかせいど	道路、公園、河川
山口県徳山市	クリーンネットワーク推進事業	道路、公園
山口県長門市	みずびいことシステム	道路 (歩道)
徳島県	徳島県OURロードアダプト事業	道路
吉野川交流推進会議	アダプトプログラム吉野川	河川
アダプト・ア・ハイウェイ 神山会議	クリーンアップ神山	道路
香川県	香川さわやかロード	道路
香川県善通寺市	「里親制度」と「アダプシヨ ンプログラム」の併用	公園、道路、河川 (予定)
愛媛県・重信町	アダプト・ア・リバー・プログラム	河川
愛媛県・久万町	あいロード	国道
高知県	高知県ふれあいの道里親支援事業	道路
福岡市あき缶・びん対策協会 福岡県福岡市	まいづるアダプト・ア・ストリート	道路、公園ほか
熊本県熊本市	熊本市美化協定	道路ほか

## アダプト・プログラムの普及状況

アダプト・プログラムは一九八〇年代に米国で誕生。九〇年代初頭にはカナダ、ニュージーランド、プエルトリコなどにも普及しました。日本では食品容器環境美化協会(食環協)が中心になり九〇年代後半から研究を開始。九八年から本格的な導入が行われています。

のは各地域や学校、職場で実施している資源回収に、リサイクルできないものは自分のごみステーションに出します。

□ はんだクリーンボランティアの導入からまだ半年が過ぎたばかりですが、半田市秘書広報課

では「市民の環境美化意識の高まりや美化・清掃の効果が少し見えてきました。今後はたばこのポイ捨て防止やさまざまな環

境美化啓発活動を行い、はんだクリーンボランティアの全地域導入を目指したい」としていま

食環協の主なサポート機能

- アダプト・プログラム紹介パンフレット
- 同ビデオ
- 研究会・セミナー

(社)食品容器環境美化協会  
〒105-0004  
東京都港区新橋4-27-4  
電話03-5472-4824  
URL  
<http://www.kankyobika.or.jp>

